

イノシシ捕獲用の低コスト簡易型箱わな



(図1)

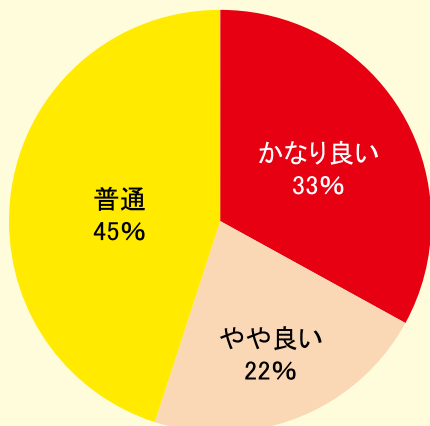
島根県中山間地域研究センターが小寺祐二氏(現 宇都宮大学農学部附属 里山科学センター)と共同で、ワイヤーメッシュ等を利用した簡易で安価なイノシシ捕獲用のわなを開発しました(図1)。

- 特徴 ホームセンター等で入手しやすい資材を使用して作成することが可能
- 製作方法 島根県中山間地域研究センターHPからダウンロード可能

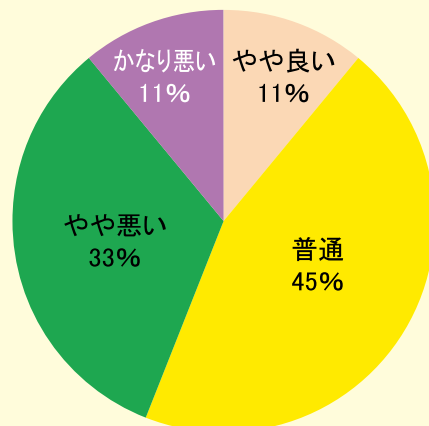
※現在、当センターではイノシシ用簡易型箱わなの貸し出しはおこなっておりません。
※捕獲には狩猟免許等が必要です。

捕獲試験のため貸し出した使用者へのアンケートでも高評価

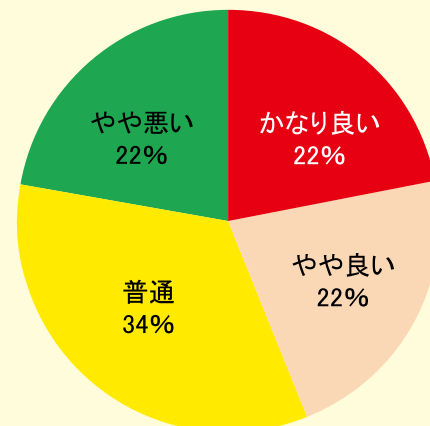
箱ワナのアンケート調査結果



Q.箱わな全体の重量はどうでしたか?



Q.箱わなの強度はどうでしたか?



Q.組み立て式の箱わなについてどう思いますか?

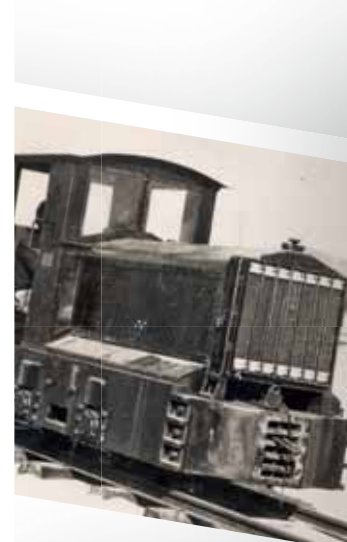
編集者のつぶやき...

今年の冬は、関東の広範囲で50年に一度の積雪で記録的な大雪となったことは記憶に新しいと思います。なにか最近の天候は異常?に感じます。地球で何が起きているのだろうと考えたくなります。そんな中、中山間地域研究センターにも、春の訪れが

聞こえてきます。「Chu-San-Kan press」も3年生になりました。中学年になって、より中山間地域の魅力が発信できるように努力していきます。(S・S)

次号 特集予告

図書室特集



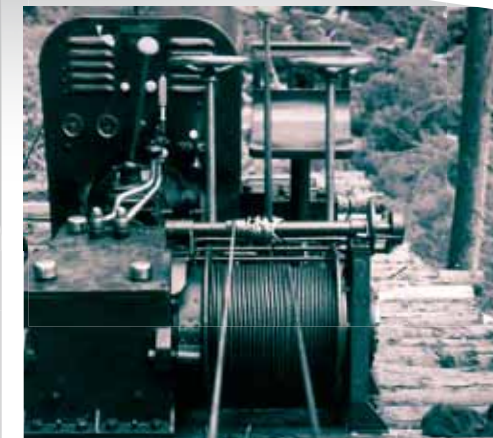
林内事務所付近の林相
昭和29年

特集
1

県有林100年生の
森林を行く
～針葉樹編～
県有林管理
スタッフ



森林道場から県有林に出発
昭和34年7月



塚本索道2胴集材機購入
昭和34年5月



電気柵は
こう使う!!
～獣害編～
鳥獣
対策科
特集
2



木馬運材
第六期隊員
昭和34年

県有林100年生の森に行く

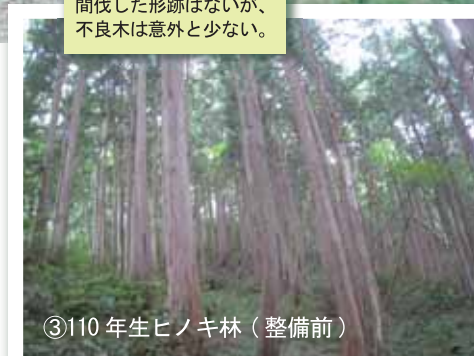
県有林の人工造林の歴史は古く、県有林百年誌によると明治31年(1898年)から毎年10haずつの造林計画に沿って施業が進められました。平成25年度現在の森林簿によると和恵県有林(飯南町小田)には100年生以上の人工林が14カ所あります。今回その一部を調査したのでご紹介します。



【昭和34年林内事務所周辺】

事務所の裏手に展示林がみえます。(50年生の頃)原木の販売は県有林内の土場で入札が行われました。苗畑では自給苗木を生産していました。

③110年生ヒノキ林
面積 0.25 ha
密度 1,000 本 / ha
樹高 23 m
直径 30 cm
間伐した形跡はないが、不良木は意外と少ない。



③110年生ヒノキ林(整備前)

100年生の森の息吹を感じてみよう！展示林

キャンプ場横にある展示林は、戦中・戦後の盛んに伐採が行われた時期にも残された森林です。現在展示林内には指谷山登山道と合流する散策道も設置されています。

間伐などの手入れ不足 ホントに100年生以上？

100年生以上ともなれば、1本の木は相当大きいはずなのですが、ほとんどが「木が小さい森林」でした。

森林の力も弱まっていきます。



PICK UP

①105年生スギ林
面積 3.60 ha
密度 1,000 本 / ha
樹高 32 m
直径 42 cm

森のホテルもりのすから30秒！



②105年生ヒノキ林
面積 0.78 ha
密度 1,300 本 / ha
樹高 19 m
直径 24 cm
手入れをした形跡なし。成長が悪く不良木も多い。

⑤112年生ヒノキ林
面積 0.25 ha
密度 2,200 本 / ha
樹高 19 m
直径 24 cm
近年、間伐を実施しているため不良木は少ないが成長は悪い。

⑦100年生ヒノキ林
面積 0.53 ha
推定密度 2,000 本 / ha。
間伐で改善の余地あり。

⑧108年生ヒノキ林
面積 0.19 ha
近年、間伐を実施している。推定密度 1,800 本 / ha。

整備しよう！まずは間伐から！

高齢林では樹木自体の成長力は落ちているため、間伐で急に大きくなることは難しいのですが、不良木を除くだけでも見た目はグッと良くなるはず。

林内に光が入るようになれば下草が生える環境が回復し、土壌流出を防ぐ効果が期待できます。

森を元気に！



生き残った森林は何を語る？

今春②③④⑦について整備を行いました。105年生ヒノキの年輪を囲んでのひとコマです。

おっ、これが②の105年生のヒノキかな？ はい、ちょうど間伐が終わったところでしたよ。どれどれ：16センチ？ 外の方は年輪がわからないね。これは根元で先はもつと細いです(泣)

昔は軍用材や戦後の復興材のために過伐が進んで、長い目で森を育てていくことが難しくなってきたかもしれないね。

あつ、ここに：(おもむろに百年誌をとりだす)

ふむふむ(黙読) 昭和14年から本格的な伐採が始まったんだね。

最初に石休谷に造林して40年経った頃ですね。

しかし100年生きた木は何か違うなあ。小さいけど木の成長した跡をこうしてみていると...

伐るとき堅かったそうです。

でしよう(笑み)

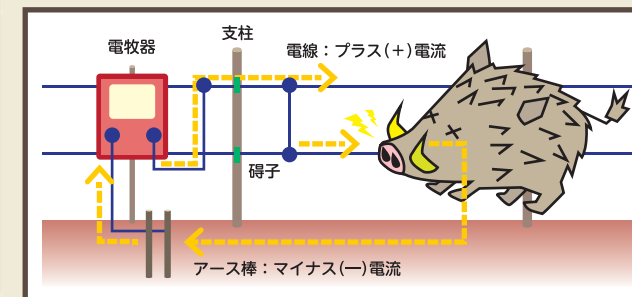
少しずつ整備していきましよう！

そしてヒノキの香りが爽やかに漂いました(終)

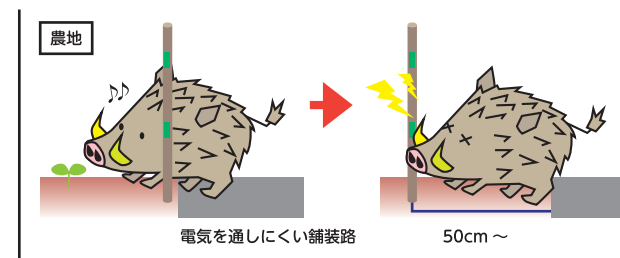
電気柵はこう使う!!

電気柵は、野生動物に電気ショックを与えて、心理的に農地から遠ざけるための道具です。しかし、正しい設置方法と維持管理を実施しなければ効果は継続しません。今回は、電気柵の効果的な使用方法について紹介します。

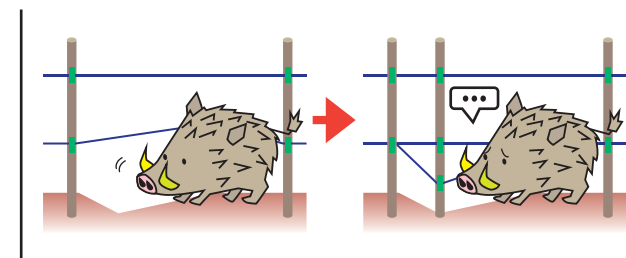
電気柵のしくみ



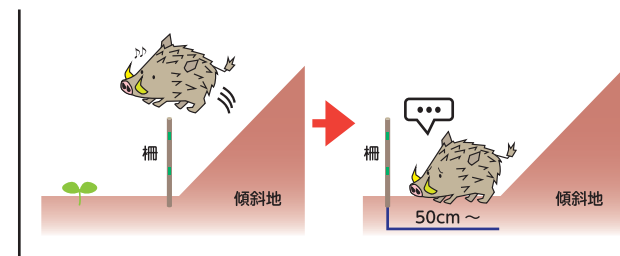
Point ① 通電性の良いところに設置する



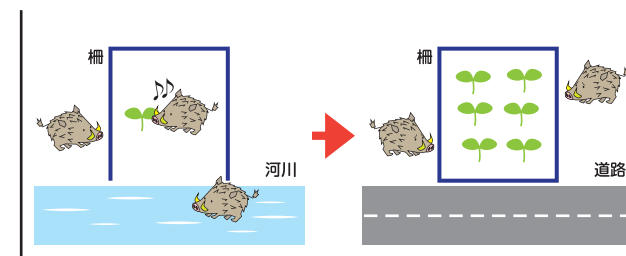
Point ② 侵入空間ができないように設置する



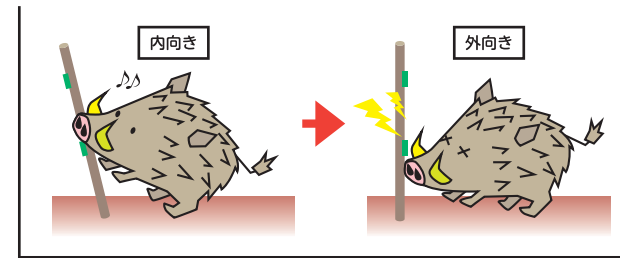
Point ③ 傾斜地から離して設置する



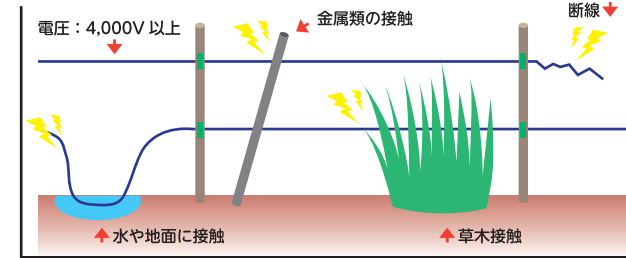
Point ④ 周囲を隙間なく囲う



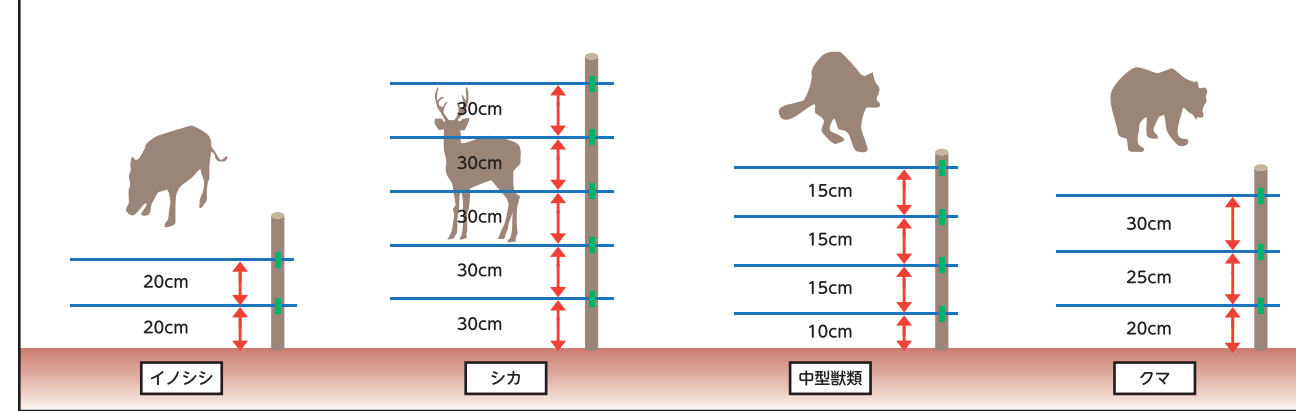
Point ⑤ 碍子は外に向けて設置する



Point ⑥ 設置後は定期的に点検・管理をする



Point ⑦ 電線は動物に合わせた高さに調節する



※複数種が出没する地域では、各動物に合わせて電線の高さを調節する必要があります